

カモメ学級 国語科学習指導案

1 単元名 こえにだしてよもう

「大きなかぶ」(光村1年上 平成9年度版)

2 目標

- 大きな声で正しくはっきりと声に出して、楽しんで読もうとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 出来事の順序を確かめ、会話を中心に想像を広げながら物語を読もうとすることができる。(読むこと)
- 会話文を表す記号を確かめることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 児童について

ひらがなは全部読めるが、拗音、促音は支援が必要である。カタカナ、1年生で出てきた漢字は半分程度読むことができる。

3年生になってから言葉のまとまりを意識し音読することができるようになった。3年生では、「はなのみち」を3回学習した。1回目は、話の大体をつかむ学習、2回目は、登場人物の気持ちや場面の様子を想像する学習、3回目は会話文に着目し誰が話したかを考える学習を行った。

「おおきなかぶ」は、3年生の3学期に学習を行った。少し長い文であったが1か月かけてすらすら読むことができるようになった。また、ペープサートをするという言語活動を通して物語のあらすじをつかむ学習を行った。児童は、楽しみながらペープサートの活動に取り組みあらすじをつかむことができた。

児童の特性として同じことを繰り返しながら学習を行なっていかなければいけない。「おおきなかぶ」も正しく声に出して読む、話のあらすじをつかむを学習を行った上で、そこに今回は会話文「うんとこしょ、どっこいしょ。」に着目しどのように読むか場面の様子を想像する学習と発展させた活動を取り入れる。児童の集中力も限られているので、口の体操のための音読やお面づくりなどいろいろな活動を1単位時間に取り入れて行っていく。

(2) 位置づけた言語活動について

「先生方に劇をしてもらうために音読する」ことを言語活動と設定した。

【本単元の言語活動を通して身に付けさせたい力】

- 登場人物の会話を中心に想像を広げながら読む力
- ①正しく声に出して読むことで、あらすじをつかむ。
- ②挿絵や行動の文に着目して考える。

(3) 今年度の研究と関わる手だて

仮説(1) 児童が読み取る活動が生かされる単元を貫く言語活動を設定する。

手だて

児童と1対1の授業がほとんどなので、今回校内の先生方が授業を参観してくれることを生かし先生方におじいさんやおばあさん役などをやっていただき劇化をすることを最終目標とすることを単元の1時間目に確認し、意欲をもたせる。先生方に劇をしてもらうためにどのように音読をすればよいかを会話文「うんとこしょ、どっこいしょ。」に着目し、考えていく。そのとき、3年生で学習したときに活用したペープサートを用いたり挿絵を使ったり、また1年生の学習発表会のフォトブックを見たりして児童の思考の参考にする。そして、お面を作成して意欲を高めていく。

仮説(2) 児童の思いをつむぎ合うような1単位時間の学習を工夫する。

手だて

挿絵を見て気づいたことをやペープサート活動で気づいたことを教師が児童役になって話すことも取り入れて児童の思いを広げていきたい。

4 単元の評価基準

○大きな声で正しくはっきりと声に出して、楽しんで読もうとしている。

(国語への関心・意欲・態度)

○出来事の順序を確かめ、会話を中心に想像を広げながら物語を読んでいる。(読む能力)

○会話文を表す記号を確かめている。(言語についての知識・理解・技能)

5 単元の指導構想 (時間 本時 6/6)

過程	時間	学習活動	具体的評価規準	指導にあたって
見通す	1	○学習の見通しをもつ。 ・「せんせいたちにげきをしてもらおう」を行うことを知らせ、準備をしていくことを知らせる。 ・学習の計画を立てる。	関 「先生たちにげきをしてもらう」を楽しみに思うことができる。 (発言・観察)	・先生方が授業を見に来てくれることを伝える。その時に先生方におじいさんやおばあさんの役をしてもらうことを話し、学習の意欲をもたせる。 ・それまで、どんな準備が必要か考えさせる。(フォトブックの活用)
確かめる・深める	2	○話のあらすじをつかむ。 ・二人で音読をしながら、挿絵をみたり、ペープサートをしたりフォトブックをみたりしながらあらすじを確かめる。	読 お話のあらすじに基づいてペープサートをうごかしているか。 (発言、観察)	・前の学習で使ったペープサートを用いあらすじを確かめさせる。
	3 ・ 4	○「うんとこしょ、どっこいのしょ。」の読み方を考える。 ・挿絵やペープサートの活動から何人で声を出してかぶを引っ張っているか考えさせる。 ・どの先生に何の役をやってもらうか考えながらお面を作る。	読 「うんとこしょ、どっこいのしょ。」の読み方を工夫しているか。 関 楽しみながらお面を作っているか。	・「うんとこしょ、どっこいのしょ。」は物語に何回出てくるか、誰が引っ張っているかを確認しながら考えさせる。 ・フォトブックを参考にしながらお面を作らせる。
	5	○「うんとこしょ、どっこいのしょ。」に気を付けて音読の練習をする。 ・声の大きさに気を付けて音読する。 ・お面を仕上げる。	読 学習したことを意識して音読しているか。 関 楽しみながらお面を作っているか。	・学習してきたことを視覚に訴えて確認する。
広げる	6 本時	○先生方を誘って「おおきなかぶ」を音読する。 ・今までの学習を振り返る。 ・先生方に参加してもらって音読をする。	読 学習したことを意識して音読しているか。	・先生方にも参加していただき楽しく音読させる。

6 本時の指導

(1) 目標

・「うんとこしょ、どっこいのしょ。」を声の大きさを意識して楽しく音読することができる。

(2) 展開

段階	学 習 活 動	支援 (○)、留意点 (・)、評価 (□)	備考
つ か む 10 分	<p>1 ことばあそびの音読をし、口の体操をする。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。 ○音読をしよう。</p>	<p>・毎時間取り組み、はっきりとした発音を意識させる。</p> <p>・今まで学習したことを生かすことや先生方に劇をしてもらうことも伝え、意欲をもたせる。また、学習したことを生かすことが音読の成功になることも伝える。</p> <p>□課題解決の見通しをもつことができたか。 (発言)</p>	<p>・紙板書</p> <p>・挿絵</p> <p>・紙板書</p>
学 ぶ ・ 深 め る 27 分	<p>3 今までの学習を振り返る。 ・「うんとこしょ、どっこいしょ。」をどんなふうを読んだらよいか前時までの学習を想起させる。 ・だんだん大きく ・最後を一番大きく</p> <p>4 先生方を誘って音読をする。 ・お願いしたい役を児童が決めて先生方をお願いさせる。 ・作ったお面などを身に付けてもらうこともお願いさせる。 ・学習したことを生かし、音読する。 ・2回行う。</p> <p>5 音読したことを振り返る。 ・自分で「うんとこしょ、どっこいしょ。」を学習したように気を付けて読めたか発表する。 ・先生がたにも感想をいただく。</p>	<p>○今までの学習した内容の紙板書を基に想起させる。</p> <p>○お願いする先生に、役名を話し、小道具を渡すことができるように促す。</p> <p>□「うんとこしょ、どっこいしょ。」を意識して楽しく音読することができたか。</p> <p>・自分でうまくできたか紙板振り返らせる。 ・先生方にも感想をいただき、児童の励みにさせる。</p>	<p>・紙板書</p> <p>・お面</p> <p>・帽子</p> <p>・スカーフ</p>
ま と め 5 分	<p>6 学習の振り返りを行う。</p>	<p>・今日の学習についてめあてをもとに振り返る。</p>	

(3) 具体の評価規準

・「うんとこしょ、どっこいしょ。」を意識して、楽しく音読できたか。

(4) 板書計画

					
○ ○先生	○ ○先生	○ ○先生	○ ○先生	○ ○先生	○ ○先生

○音読をしよう。
おおきなかぶ